

平成 27 年 5 月

2015年「G7サミットに向けた共同声明」について

1. 「G8/G7サミットに向けた共同声明」とは

G8/G7サミット参加各国等の学術会議（科学アカデミー）が、サミット参加各国の首脳に向けて科学者としての政策提言を行う目的で、2005年以来共同声明をとりまとめている。通常G8/G7サミット議長国の学術会議がテーマの選択や共同声明とりまとめのための会合を開催し、日本からは日本学術会議が参加している。とりまとめられた共同声明は各国同時期に自国の首脳陣に提出されるが、日本においては、例年日本学術会議会長から内閣総理大臣に直接提出している。

この活動は、当初「G8学術会議」の名称でスタートしたが、G8以外の国のアカデミーも加わった時期があり、参加アカデミーの提案で2012年から「Gサイエンス学術会議」に名称変更した。

昨年2014年はロシアが開催予定であったG8サミットが非開催となったことを受け、Gサイエンスも行われなかったが、2015年はドイツでのG7サミット開催を受け、Gサイエンスも再開した。

来年の2016年は日本がサミットの議長国となるため、日本学術会議がGサイエンス学術会議を主催する。

2. 本年2015年のGサイエンス学術会議及びGサイエンス学術会議共同声明

Gサイエンス学術会議の主催組織と参加アカデミー

2015年のG7サミットの議長国であるドイツを代表し、ドイツ科学アカデミー・レオポルディーナの主催により、本年2月23～24日にドイツ・ハレ及びベルリンでGサイエンス学術会議が開催された。

今回は、G7国の科学アカデミーから、その代表者や共同声明のテーマに関連する専門家が参加した。

その後、各国アカデミーによる調整を経て、以下の3本の共同声明の形にとりまとめられ、ドイツでは、4月29日（水）にメルケル首相に提出（各国アカデミーも同時期に自国のリーダーに提出する）。

2015年Gサイエンス学術会議共同声明テーマ

- ◆ Infectious Diseases and Antimicrobial Resistance: Threats and Necessary Actions（仮訳：感染症と抗菌剤耐性：その脅威と対策）
- ◆ Neglected Tropical Diseases（仮訳：顧みられない熱帯病）
- ◆ Future of the Ocean: Impact of human activities on marine systems（仮訳：海洋の未来：人間の活動が海洋システムに及ぼす影響）

3. これまでのGサイエンス学術会議及び8学術会議共同声明のテーマ（仮訳）

2013年 インド

- ・ 持続可能な開発の促進：科学・技術・イノベーションの役割
- ・ 病原微生物の薬剤耐性問題：人類への脅威

2012年 アメリカ

- ・ 災害に対するレジリエンス（回復力）の構築
- ・ エネルギーと水
- ・ 温室効果ガス

2011年 フランス

- ・ 科学を基盤とする世界の発展のための教育
- ・ 水と健康

2010年 カナダ

- ・ 母子の健康の推進
- ・ 開発のためのイノベーション

2009年 イタリア

- ・ 気候変動と低炭素社会に向けたエネルギー技術への転換

2008年 日本（洞爺湖サミット）

- ・ 気候変化：適応策と低炭素社会への転換
- ・ 地球規模の健康問題（グローバル・ヘルス）

2007年 ドイツ

- ・ エネルギーと気候変動
- ・ イノベーションの推進と保護

2006年 ロシア

- ・ エネルギー持続可能性と安全保障
- ・ 鳥インフルエンザと感染症

2005年 英国

- ・ 気候変動に対するグローバルな対応
- ・ アフリカ開発のための科学技術

2015年Gサイエンス学術会議共同声明（概要）

感染症と抗菌剤耐性：その脅威と対策

- 新興感染症と、抗菌剤に対する薬剤耐性菌の問題は、世界全体で深刻化しており、政治的、公的にも明確な形での、分野横断型かつ国際協力体制での包括的な対応が求められている。
- G7国の科学アカデミーは、新規抗菌剤・診断法の研究開発と生産の加速、科学情報不足の解消や、耐性獲得メカニズム解明など研究課題の優先順位付け、世界規模のサーベイランス（監視）・プログラムの実行、社会と連携した取組の組織化・継続的实施を提言する。

顧みられない熱帯病（NTD: Neglected Tropical Diseases）

- 世界の低・中所得国の最貧層の人々に健康被害をもたらしている感染症群（NTD：住血吸虫症、デング熱、ハンセン病等）は、撲滅可能なものも含まれるにもかかわらず、共通して治療やケアが不足し、当該国の保健・経済システムを圧迫している。
- G7国の科学アカデミーによる共同声明では、NTD克服のための当該国の対応能力強化のための支援、NTD研究の強化、安価でアクセス可能な治療法の開発・提供に加え、持続可能な開発目標（SDGs）でのNTDの対応を提唱する。

海洋の未来：人間の活動が海洋に及ぼす影響

- 人間活動が世界中の海洋に大きな変化をもたらしている。主原因には、人間活動に伴う大気中の二酸化炭素（CO₂）濃度の上昇があり、海洋全体の生産性が変化している。他にも、栄養塩・化学物質・プラスチック屑による汚染、水産生物の乱獲、侵入生物種の蔓延等があり、これらすべてが地球上の多くの地域における人々の暮らしや健康、そして人間社会に重大な影響を及ぼしている。
- こうした状況への対応のため、G7国の科学アカデミーは、国家レベルでのCO₂排出量抑制の徹底、人為的な海洋汚染の削減・規制の強化、水産物の乱獲の防止及び科学的根拠に基づいた責任ある管理による海洋の生物多様性・生態系機能の維持、国際的な科学協力の推進による、より良い方向での緩和・管理・予測の実施、を行うことで、海洋の未来への変化を緩和し、社会と環境への影響を最小限に抑えるよう提唱する。